

# 会計システム専門監査人部会 活動報告

## システム監査学会 会計システム専門監査人部会

発表者：平塚康哲

共同発表者：清水恵子(部会主査)

2021年6月 11日



All Rights Reserved, Copyright Japan Society for Systems Audits 2021

## 発表テーマ

# 今後の会計システム専門監査人部会活動について 及びシステム開発改修時のシステム監査の重要性

## 会計システム専門監査人部会とは

会計システム専門監査人は、会計システムに関する専門知識を保有し、会計情報の不正等を指摘できる技量と知見を有する監査人として認定された事を示す資格です。これは、実務上、会計監査において、内部統制監査の支援をするため、IT統制上の観点から財務報告の適正性について監査人に意見を述べることができるという事になります。

これまでに、会計システム専門監査人が使用する目的で「会計システム監査実施ガイド」の作成、実践的な会計システムのシステム監査を行う事を目指し「SAP ERPの業務処理統制の実際的例の研究」における成果物の作成を行って来ました。これらの成果物は、すでに実務の中で役割を終えたと思われる面もあり、次の段階にいきたいと思っています。

## 題目について

1. 今後の活動について、予定の段階ではありますが、公表したいと考えています。

2. 昨今多くのシステム障害が発生しており、一つの解決策として、システム改修時にシステム監査を組み入れる事を提言したいと考えており、それについて発表致します。

最終的にはITの構築は、企業の成果に結びつくため、全社統制の理解はどうするかのリスクの評価にも関連すると考えています。

## 今後の会計システム専門監査人部会活動について

現在、部会活動は実質的に停滞している状況です。

これは、いくつかの理由がありますが、理由としては、J-SOX監査の定着で、活動への参加が減少している。また、昨今のコロナ禍による人の集合が抑制されているという事も否めない事実です。

しかし、一方で、Internetを利用したオンラインミーティングは、ほぼ定着したと考えられ、今までは消極的利用だったオンラインでの会議が、一般的と考えられる様になりました。また、オンラインによる業務の拡大により、内部統制監査の見直しの動きもあります。

この変化に対応して、会計システム専門監査人部会の活動の方向を考えています。

ただ、次にあげる事も、全てが確定したものではなく、今後学会内等で確認、調整をした上で実施する事になります。

# 今後の会計システム専門監査人部会活動について (続き)

## 1. 活動形態について

- 部会開催は、基本的にオンラインとする
- 部会運営としては、公開部会とし、会計システム専門監査人に以外にも、システム監査と企業の成果に興味がある方の参加をもとめて広く議論をする。オンラインにより、地方の会員も参加できる
- テーマを決めて議論をする座学ではなくそれぞれが興味ある資料等を提供していく
- 時には講師を依頼して勉強会をおこなう。メンバーの中の講師を依頼するなどを考察している

## 2. 活動内容(成果物)案について

- 部会開始時に活動内容(何を目的とするか、何を成果物とするか等を決める。
- 活動内容の候補としては、次の様なものが想定できる。
  - ① 財務諸表監査に関連するITの監査。(最終的には企業の業績に影響を及ぼす様な事項に関するものとなる想定)。
  - ② 会計士協会から出されているリモートワーク対応に関する公表物(現時点で5点)について、システム監査の観点から検討し、提言が必要な点が出て来た場合には、それらを整理しまとめたものを成果物とする。

## システム監査従事者スキルアップセミナーについて

「スキルアップセミナー」を本年度は開催を予定しております。

詳細はこれからですが、時期としては9月10日(金)午後を予定しております。専門監査人向けの課題提出により専門監査人資格更新のポイントになります。Zoomでのオンラインでの開催です。

例年通り専門監査人以外の方の参加も可能ですが、専門監査人及び以前に資格取得をした方々には、是非とも参加をご予定頂ければと思います。

詳細につきましては、決定次第、学会サイト([www.sysaudit.gr.jp](http://www.sysaudit.gr.jp))にて公表いたしますので、ご参照下さい。

できる限り実践的な対応について研修をしたいと思っています。

内部統制監査に係る方、地方在住の方など多くの方の参加を募ります。

# システム開発改修時のシステム監査の重要性(1)

## [システム監査の目的・定義]

**システム監査の目的：** 出典 経済産業省 システム監査基準(平成30年4月20日改訂)

前文(システム監査基準の活用にあたって)

[1]システム監査の意義と目的

システム監査とは、専門性と客観性を備えたシステム監査人が、一定の基準に基づいて情報システムを総合的に点検・評価・検証をして、監査報告の利用者に情報システム1のガバナンス、マネジメント、コントロールの適切性等に対する保証を与える、又は改善のための助言を行う監査の一類型である。

また、システム監査は、情報システムにまつわるリスク(以下「情報システムリスク」という。)に適切に対処しているかどうかを、独立かつ専門的な立場のシステム監査人が点検・評価・検証することを通じて、組織体の経営活動と業務活動の効果的かつ効率的な遂行、さらにはそれらの変革を支援し、組織体の目標達成に寄与すること、又は利害関係者に対する説明責任を果たすことを目的とする。

## システム開発改修時のシステム監査の重要性(2) [システムの改修]

- ❑ システムの改修は、既存のシステムに存在する不具合の解消、機能付加・削除・変更等を加えるプロセスである
- ❑ システムのライフサイクルにおいて、システム改修はメンテナンスのフェーズとして考えられるケースが現況では一般的である
- ❑ しかし、改修自体が、規模として初期開発に匹敵するかそれ以上になる場合も多く存在する
- ❑ これはシステムが長期のライフタイムを持つ様になり、拡大化の一途を歩む結果と考えられる
- ❑ 単純にメンテナンスフェーズの一部として位置づけるのは不適切になって来ていると考えられる

## システム開発改修時のシステム監査の重要性(3) [改修時の不具合事例]

昨年来の特に大きな影響を及ぼしたシステム開発改修時システム障害事例

- ◆ 大手銀行のATM関連障害 --- 複数回連続
  - ・ カードが返って来ない等の障害
  - ・ 既存システムへの機能付加を行おうとしていた
- ◆ 政府によるコロナ対策システムの不具合
  - ・ 通知がされない等の不具合
  - ・ 初期にはなかったと考えられる不具合の発生
- ◆ 証券取引システム障害(昨年)
  - ・ 株価など相場情報の配信が停止
  - ・ 以前に行った不適切な設定の見過ごし

これらのシステムでは、最近か数年前に開発改修があったものである。

社内システムは、この様な不具合は公表される事がないので、多くの事例が存在していると推測される。

## システム開発改修時のシステム監査の重要性(4) [システム改修時のリスク]

- ◆ 元々システムの改修は、システムをより良いものとして動作させる為に行うものであり、悪い方向にシステムを動作させる事を意図して行うものではないが、初期開発時には無いリスクを伴う
- ◆ システム改修時のリスクとして考えられるものは、主なものとしても以下の様な事がある
  - ✓ 新しく変更された部分の正常稼働が出来ない
  - ✓ 既存の機能と新しく変更された部分との整合性がとれていない
  - ✓ 全体のシステムとして使用するリソースが不足になる
  - ✓ テストがされていない部分、機能がある
- ◆ 不具合が頻発するというのは、この様なリスクに関連する何等かの原因があったと推測される
- ◆ 経営リスクの観点からすると、改修の大規模なものは、新規開発のようにITへの投資であるという事が言える

## システム開発改修時のシステム監査の重要性(5) [システム改修時のリスク管理の実情]

- ◆ 先に挙げた改修時のリスク管理に関する実情として、
  - 比較的初期開発時には、工数をかけてリスク管理が行われている場合が多いと考えられる
  - 一方で、システム改修時には、リスク管理が十分に、適切に考慮されているとは言えない
  - ライフサイクルの単なるメンテナンスと捉えて、リスクへの十分な配慮を怠っている
  - 経営側に、システム改修時には新規構築時と同等以上にリスクが存在する事の理解が得られていない

### 遭遇した事例：

システムアップグレード(OSのサポート切れに対応するもの)の為のシステム改修において、新たに導入したプログラムの負荷の見積もりが適正ではなく、サーバー負荷が増大し他プロセスに影響が発生。

サーバー(クラウド)の能力向上により対応。

直接には、リスク管理との関係はなさそうに見えるが、事前のリスク回避策定において、テスト項目とその適正な結果を詰める時に、十分な考慮がされていなかった、その確認を第三者が行っていなかったという点で、リスクへの配慮が十分でなかったと言える。

## システム開発改修時のシステム監査の重要性(6) [システム監査人に何が出来るか]

- ◆ システム監査人としての役割は、目的・定義に示してあった様に、必要な助言を与える立場である
- ◆ その場面は、システムのライフサイクル全域を対象とする
- ◆ また、リスク管理のエキスパートとしても知見を備えておく事で、前述したシステム改修時のリスク管理に寄与できる
- ◆ 何らかのプロジェクトに関与している場合、システム監査人は、リスク管理に基づく監査視点で助言を与える事が求められている
  - => 実際には明文的・明示的に求められてはいない場合でも、出来る限りの助言をすべきである
- ◆ 経営側にシステム改修時のリスクについて、進言をする
- ◆ システム改修時のシステム監査の重要性を認識し、積極的に関与し、適切な助言をする事で、最終的には社会に寄与する行動がとれる

# 会計システム専門監査人部会 活動報告

専門監査人として、より広い分野へ業務展開できる様に  
知見とスキルを高めていきましょう

ご清聴ありがとうございました

システム監査学会  
会計システム専門監査人部会

主な情報出典：  
経済産業省、ISACA